

2019年度 第3四半期決算について

2020年2月6日

本資料及び本説明会におけるご説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明は、現在当社の経営陣が入手している情報に基づいて行った判断・評価・事実認識・方針の策定等に基づいてなされもしくは算定されています。

また、過去に確定し正確に認識された事実以外に、将来の予想及びその記述を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を用いてなされもしくは算定したものです。将来の予測及び将来の見通しに関する記述・言明に本質的に内在する不確定性・不確実性及び今後の事業運営や内外の経済、証券市場その他の状況変化等による変動可能性に照らし、現実の業績の数値、結果、パフォーマンス及び成果は、本資料及び本説明会におけるご説明に含まれる予想数値及び将来の見通しに関する記述・言明と異なる可能性があります。

※ 本資料中の「E」は記載の数値が計画または業績予想であることを表しています。

➤ 連結決算概況

- 2019年度第3四半期 連結決算の状況
- 2019年度第3四半期 セグメント別の状況

➤ トピックス

➤ Appendix



連結決算概況

2019年度第3四半期 連結決算の状況

- 営業収益・営業利益は、増収・減益
- 営業収益は第3四半期として過去最高

連結決算状況

● 営業収益	:	8兆8,627億円	(対前年 +675億円 [+0.8%])
● 営業利益	:	1兆4,504億円	(対前年 ▲767億円 [▲5.0%])
● 当期利益※1	:	7,969億円	(対前年 +48億円 [+0.6%])
● 海外売上高※2	:	147億ドル	(対前年 +6.8億ドル [+4.8%])
● 海外営業利益率※2	:	2.5%	(対前年 ▲0.6pt)

※1 当期利益は、当社に帰属する当期利益（非支配持分帰属分控除後）を記載しております。

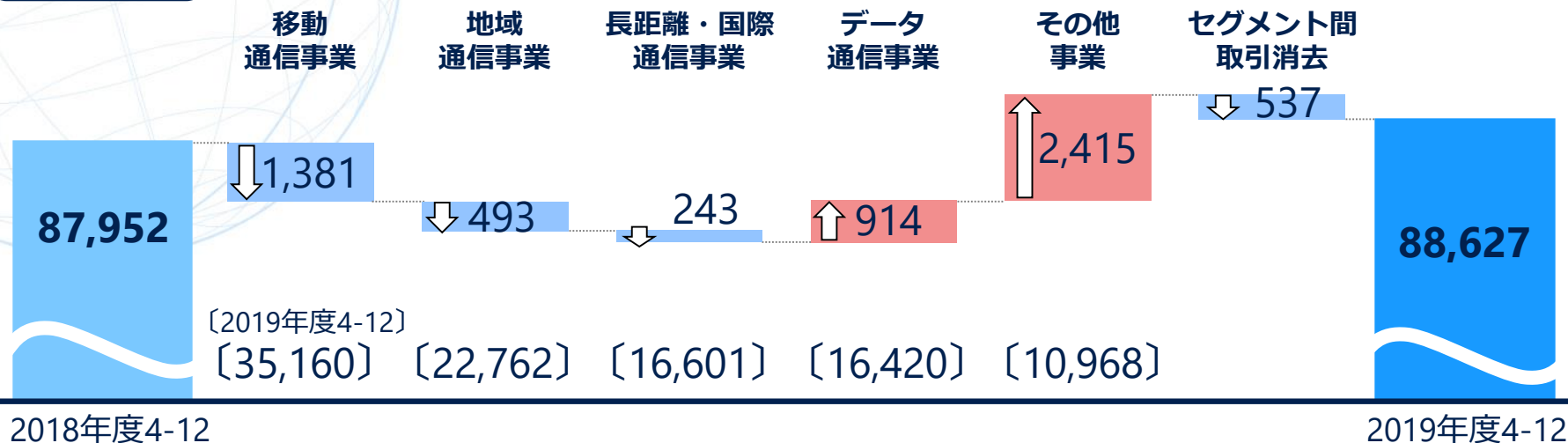
※2 グローバル持株会社帰属。海外営業利益は買収に伴う無形固定資産の償却費等、一時的なコストを除いております。

2019年度第3四半期 セグメント別の状況 **NTT**

営業収益

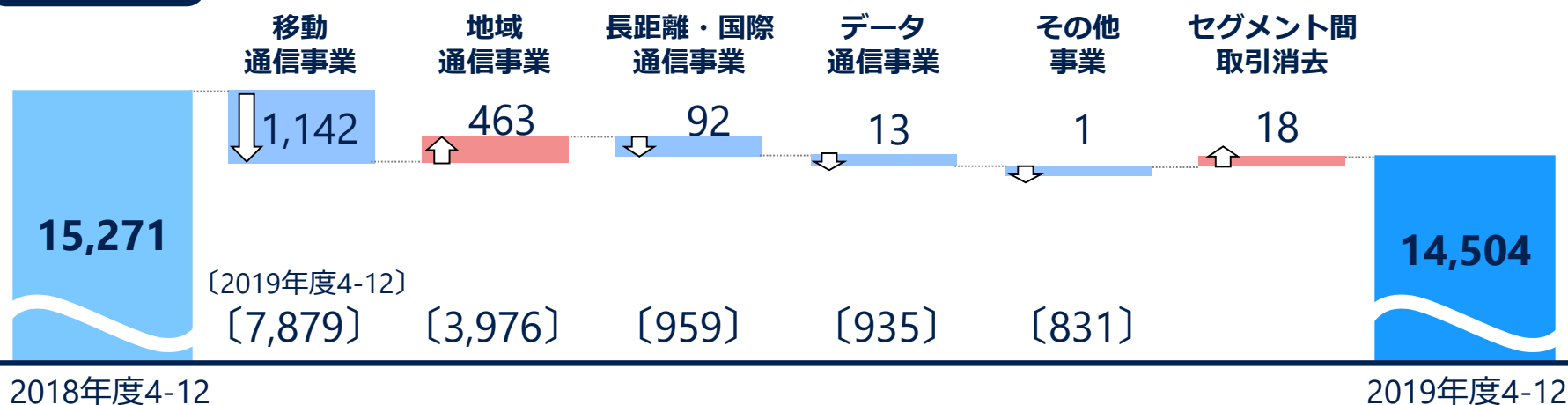
(対前年 : +675)

(単位 : 億円)



営業利益

(対前年 : ▲767)





トピックス

人・技術・資産を活用した新事業の取組み①

● 効率的なアセットマネジメント推進

- ・ 東京センチュリー社（以下、TC社）とリースや新分野で協業（NTTファイナンス）

✓ リース事業（資産1.3兆円/負債1.2兆円）をTC社とのJV※へ移管（JVは持分法適用へ）（2020年7月1日営業開始予定）

※JVの名称はNTT・TCリース株式会社（会長：岡田顯彦、社長：成瀬明弘）

✓ TC社株式を10%取得

- ・ 売掛債権の流動化（NTTドコモ）

✓ 拡大するクレジット債権を証券化

✓ 3月からスタートし、順次規模を拡大

上記施策により、成長投資、株主還元余力の更なる拡大

～お客さまのデジタルトランスフォーメーションをサポート～

B2B2Xモデルの推進

- 三菱商事との産業DX推進に関する業務提携（2019年12月20日）
 - ・ 両社の強みを生かした「産業DXプラットフォーム」を構築、食品流通分野や産業素材流通分野などにおける横断的なDX促進と社会的課題の解決をめざす
 - ・ 中核機能の1つとして「位置情報サービス」強化のため、同分野のグローバルサービスプロバイダーである HERE社へ共同出資予定※
- マイクロソフトとの戦略的提携（2019年12月10日）
 - ・ グローバル・デジタル・ファブリックの構築
 - ・ 企業向けデジタルソリューションの開発
 - ・ IOWN連携

※HERE社（HERE International B.V. 本社オランダ）に対して、両社50%出資で設立する共同持株会社を通じて3割の株式を取得予定

グローバル事業の競争力強化

- ラスベガス市スマートシティソリューションの展開
 - ・ マレーシア・サイバージャヤ地区での車両監視※
(NTT Ltd. 等 2020年2月～)
 - ✓ 交差点における車両数、特定車両の監視
 - ✓ 渋滞緩和・盗難車検知、近隣ビジネスの創造
 - ・ 田園調布双葉学園でのキャンパスソリューション検証
(NTTデータ等 2020年2月～)
 - ✓ 校舎間横断歩道における道路の安全状況監視
 - ✓ 学校内安全対策に資するキャンパスソリューションの創造



※総務省2019年度事業「マレーシアにおける社会課題解決のためのスマートシティモデルの構築に関する調査研究」の一環として実施

研究開発の強化・グローバル化

- 「CES2020」に初出展（2020年1月7日～10日）
 - ・ 「Beyond The Internet」をテーマに、IOWN構想により実現する世界をユースケースや基盤技術展示を通じて紹介
 - ・ NTTブースには、1万人を超えるお客さまが来場
 - ・ NTT関連動画の再生が、全世界において2,500万回以上



全景



体験型
ファウンテン



IOWN R&D LAB
(人工光合成、海中超音波技術)



人・技術・資産を活用した新事業の取組み②

● 医療情報の活用による医療高度化への貢献

- 京都大学との合併により「新医療リアルワールドデータ研究機構株式会社（PRiME-R）」を設立（2020年2月3日）
 - ✓ がん領域などにおいて、臨床情報入力段階で構造化・標準化されたデータベースを構築し、さまざまな臨床情報解析・活用を支援

地域社会・経済の活性化への貢献

● eスポーツ分野における新会社の設立

- ICT×eスポーツによる地域社会への貢献をめざし、「NTTe-Sports」を設立（NTT東日本等 2020年1月31日）

● ローカル5Gへの取組み

- グループ各社において、パートナー（企業・大学等）とユースケースの共創や実証実験を実施
（NTT東日本・NTT西日本・NTTコミュニケーションズ 2020年2月～）

ダイバーシティ＆インクルージョンの取組み

- 障がい者の活躍推進に取り組む国際イニシアティブ「The Valuable 500」に加盟（2019年12月19日）
- 遠隔操作型分身ロボット「OriHime-D」を活用した障がい者による受付業務のトライアルを実施（2020年2月20日）



トライアルイメージ
(OriHime-D)



Appendix

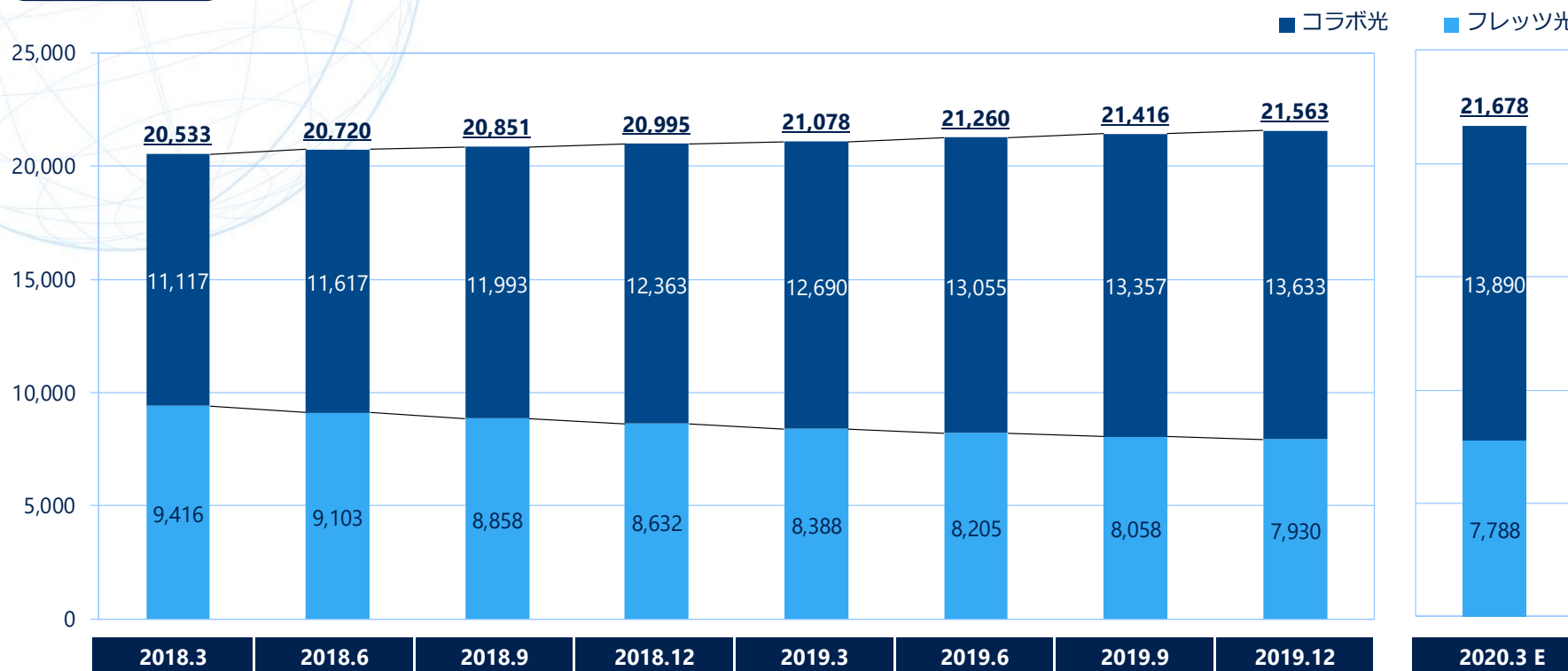


ブロードバンド・サービス

固定ブロードバンドの契約数

契約数

(単位：千契約)



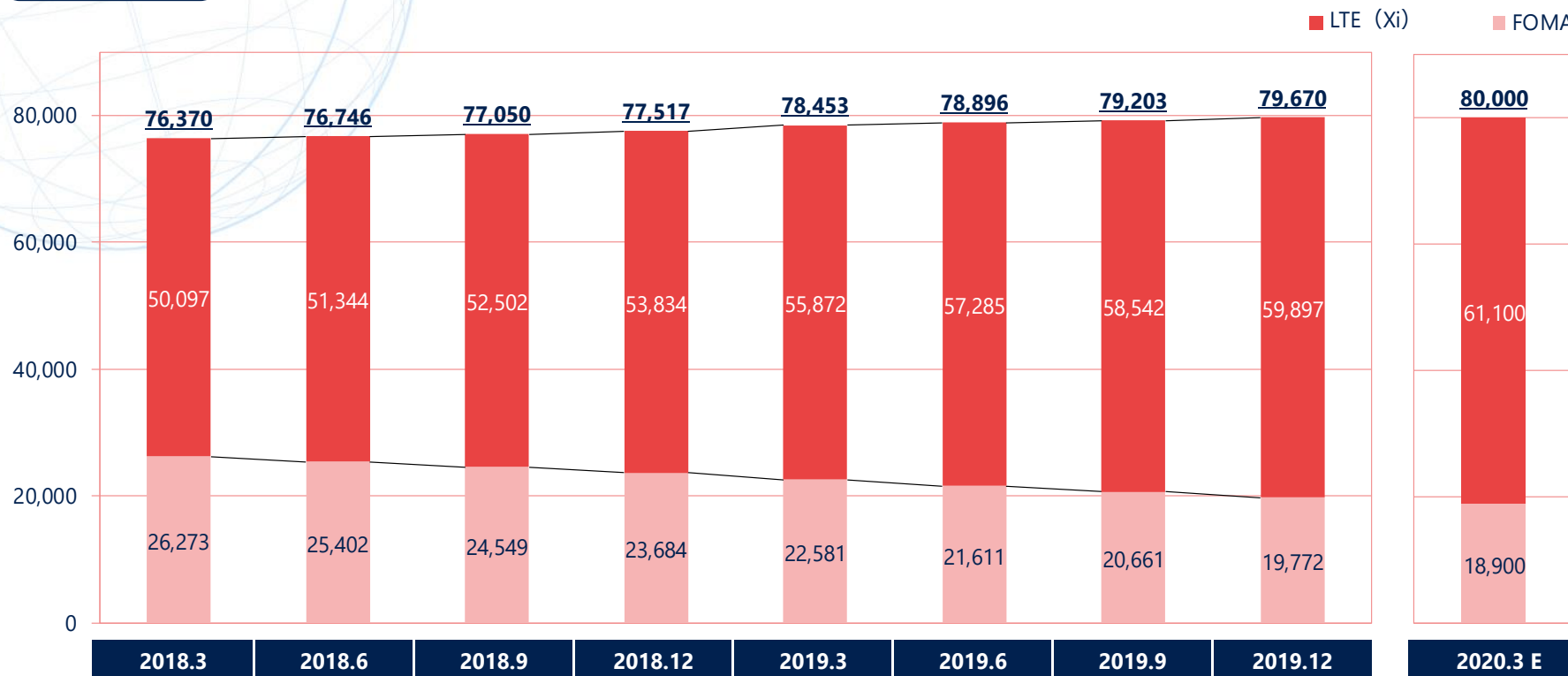
純増数

	2018 4-6	2018 7-9	2018 10-12	2019 1-3	2019 4-6	2019 7-9	2019 10-12	2019 4 - 2020 3 E
合計	+187	+131	+144	+83	+182	+156	+148	+600
	+545				+486			
コラボ光	+500	+376	+370	+327	+365	+302	+276	+1,200
	+1,573				+943			
フレッツ光	▲313	▲245	▲226	▲244	▲183	▲146	▲128	▲600
	▲1,028				▲457			

移動ブロードバンドの契約数

契約数

(単位：千契約)



純増数

	2018 4-6	2018 7-9	2018 10-12	2019 1-3	2019 4-6	2019 7-9	2019 10-12	2019 4 - 2020 3 E
LTE(Xi) + FOMA	+376	+304	+467	+935	+443	+307	+467	+1,500
	+2,083				+1,217			



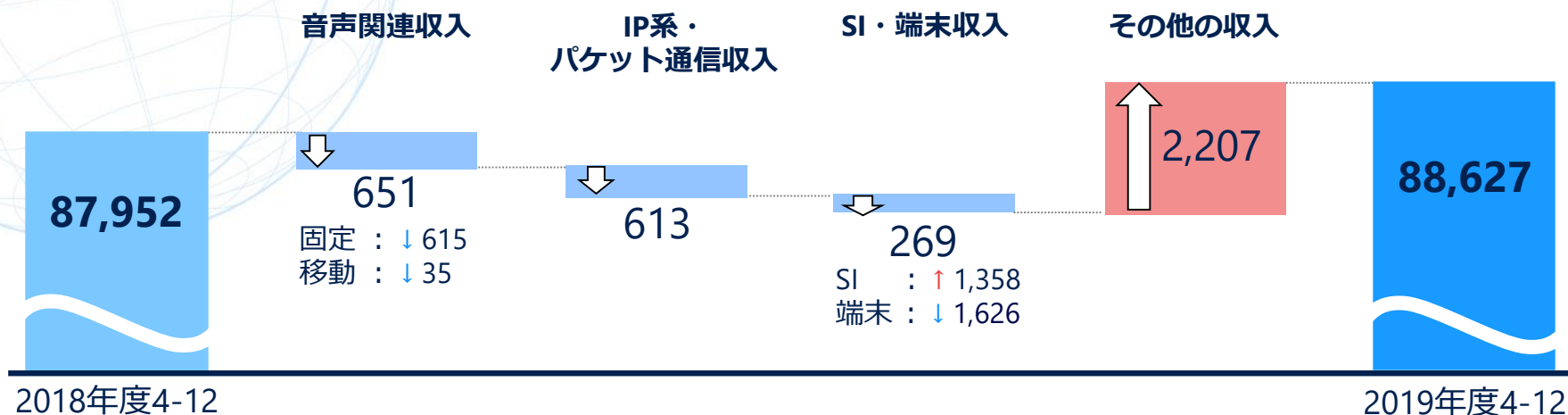
財務状況

連結損益計算書の状況

営業収益

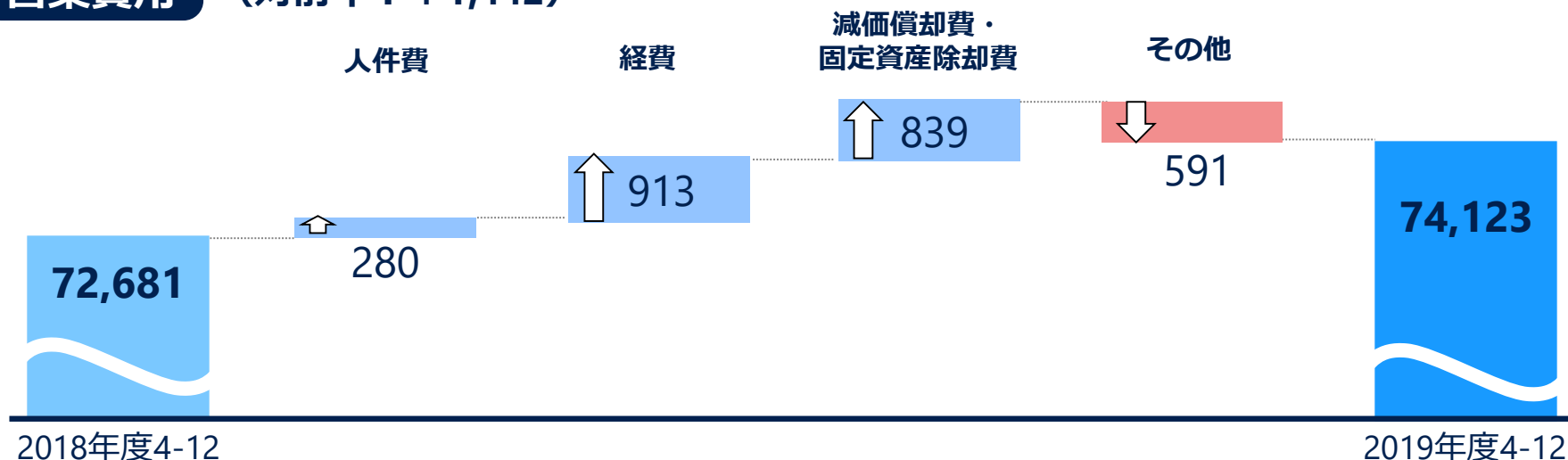
(対前年 : +675)

(単位 : 億円)



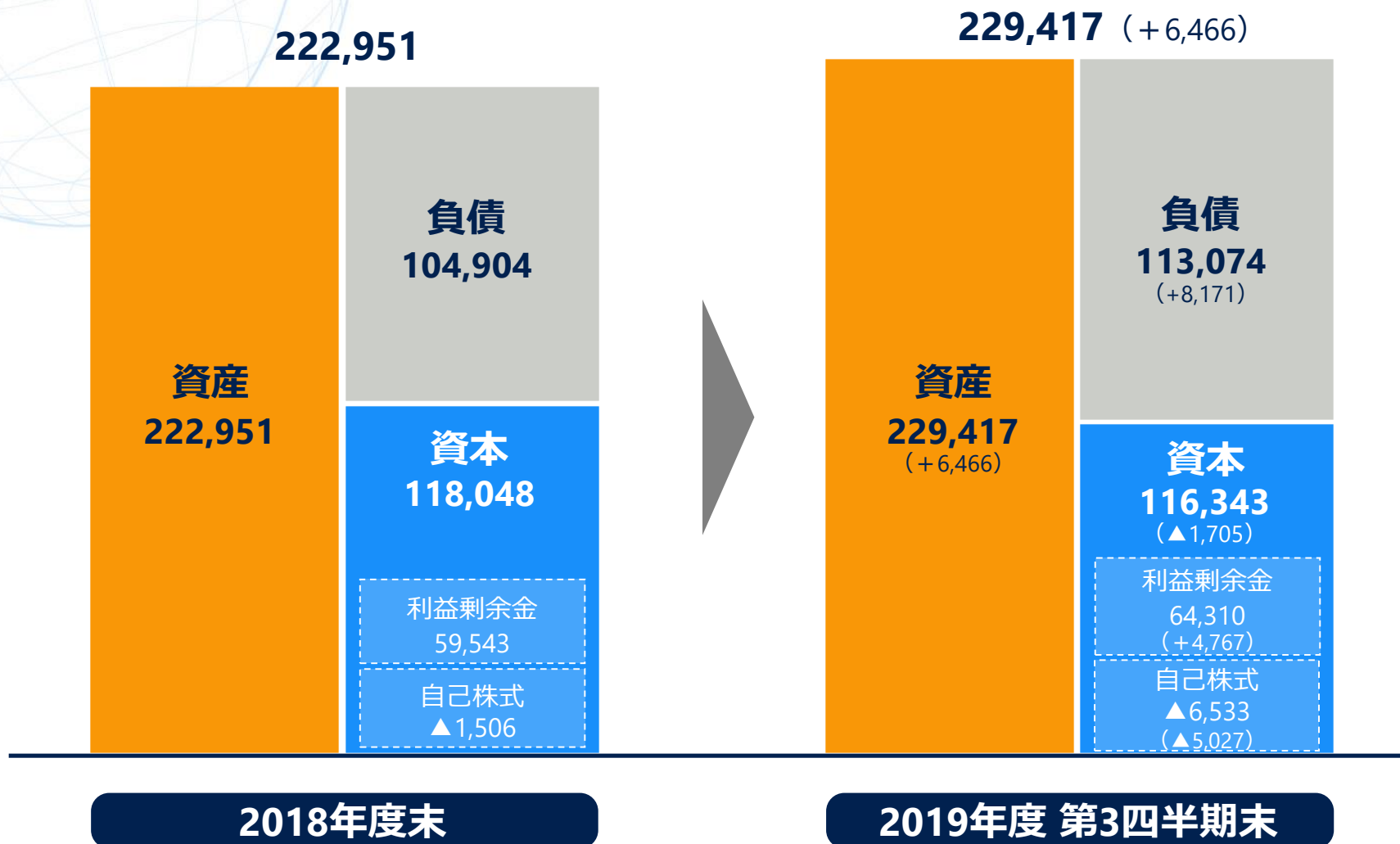
営業費用

(対前年 : +1,442)



連結貸借対照表の状況

(単位：億円)



連結キャッシュ・フローの状況

(単位：億円)

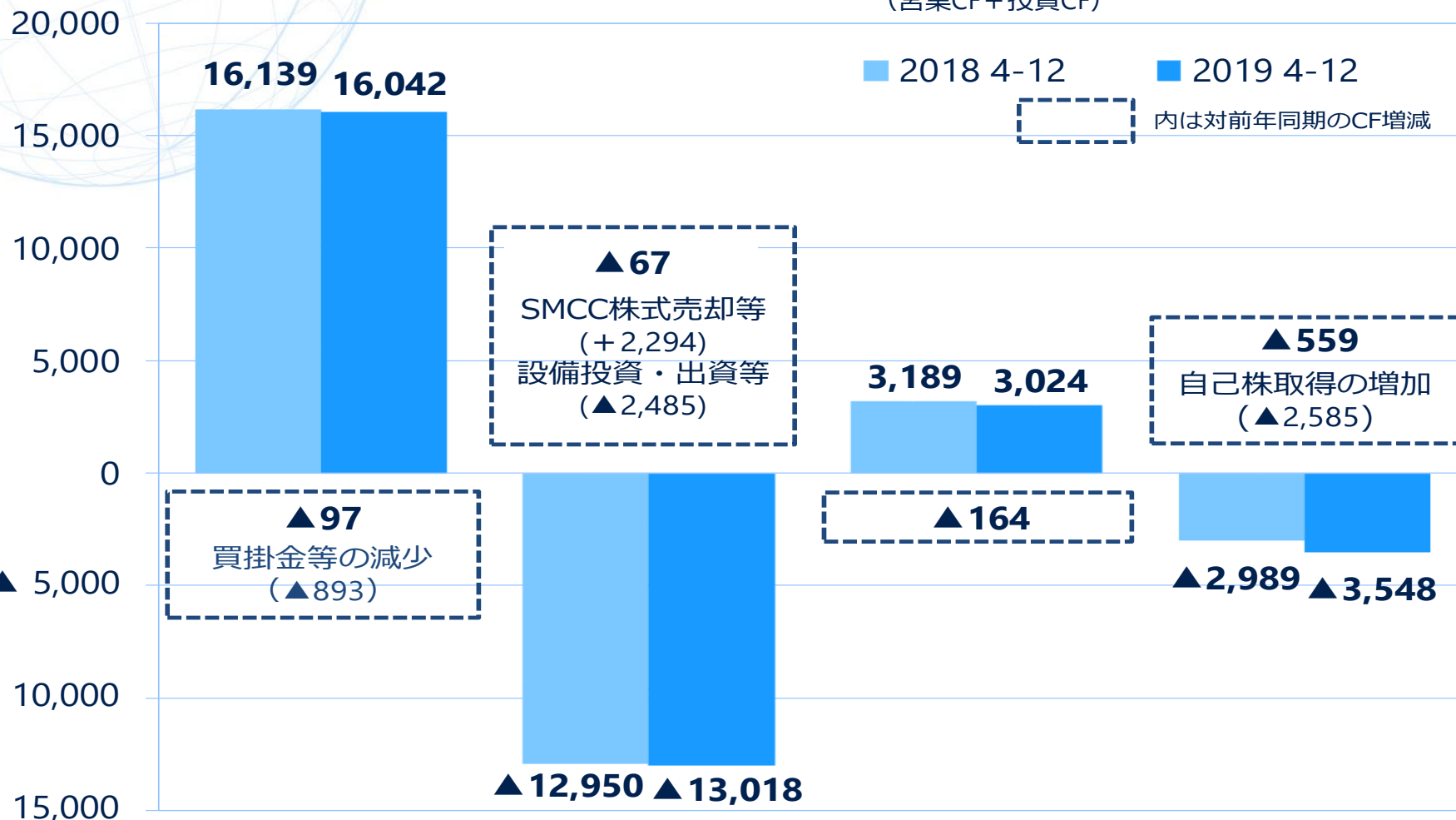
営業CF

投資CF

FCF

(営業CF + 投資CF)

財務CF

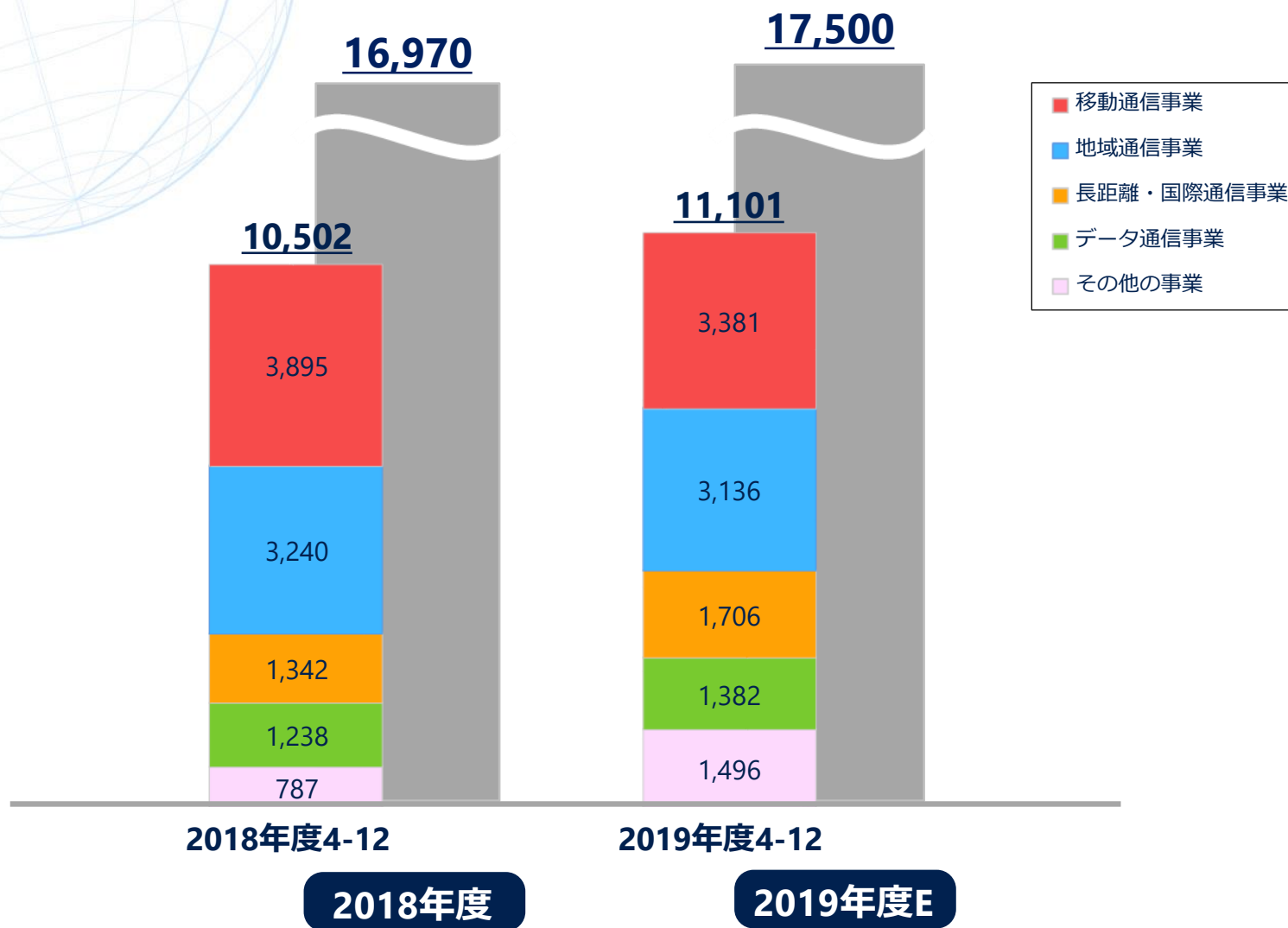


※前期末日及び当期末日が休日だった影響を除いた額。

※2019年度はIFRS第16号(新リース会計基準)適用開始に伴う営業CF・財務CFの増減影響を除いた額。

設備投資額の状況

(単位：億円)



自己株式取得

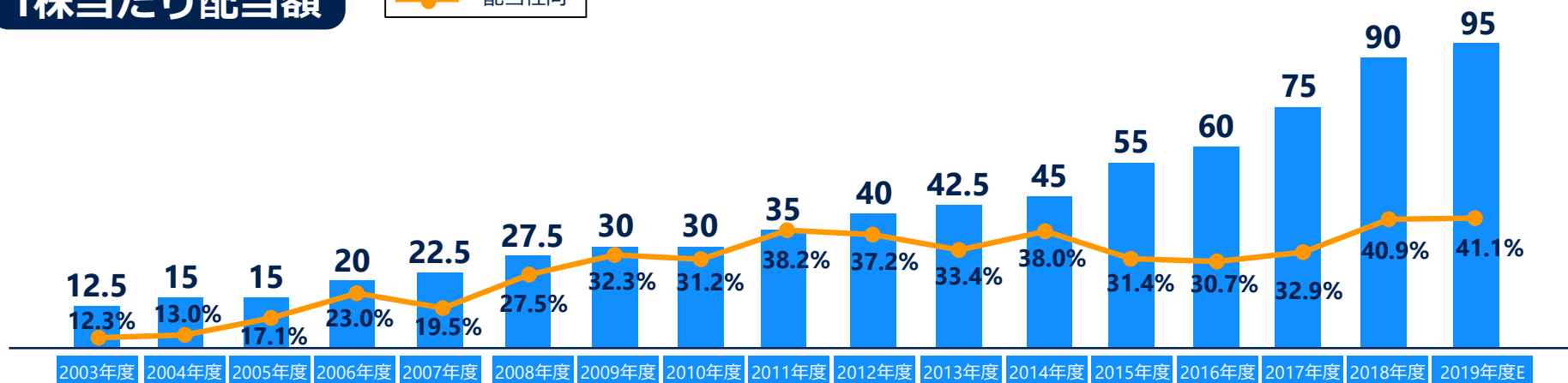
(単位：億円)



1株当たり配当額

(単位：円)

● 配当性向



(注1) 配当額は、2015年7月1日を効力発生日とした株式分割（普通株式1株を2株に分割）、及び2020年1月1日を効力発生日とした株式分割（普通株式1株を2株に分割）を考慮

(注2) 2017年度以前は米国会計基準、2018年度以降は国際財務報告基準（IFRS）を適用



Your Value Partner